

—あおぞら—

大気環境研究におけるボーダーレスとニッチ

横浜国立大学
中井里史

大気環境に限りませんが、環境問題がボーダーレスの課題であることに異論を挟む人は少ないと考えます。また、ボーダーレスの大気環境問題と言うと、越境大気汚染を思い浮かべる人が大半であることも事実ではないかと思えます。もちろん、日本にとって、中国等からの越境汚染問題は重要な課題であり、多くの方が研究に携わっています。しかし、大気環境研究におけるボーダーレスとはそれだけなのでしょう。

筆者は、人への健康影響を探る環境疫学を研究領域として、その中でも曝露評価を主に検討しています。曝露評価は環境とレセプターである生体が接している状況を調べる分野であり、必ずしも定点での濃度測定と同じではありません。曝露評価を考える際は、屋外汚染、屋内汚染、といった空間・場所の濃度把握、そしてその先にか総合的評価とも言える個人曝露量評価が必要であり、そこから体内への取込み、健康影響に繋がっていきます。もともとの大気汚染・大気環境をどのように考えるかにもよりますが、越境汚染などより空間的に狭い範囲の検討を行うことになろうかと思えます。それでも、上記の考え、また枠の中でボーダーレスという視点が必要となってきます。ドアや壁によって空気の質がまったく別のものになってしまうということは考えられません。かなり狭い範囲であろうと、また多かれ少なかれ、あちこちにボーダーレスの課題が埋もれています。

さらにちょっと視点を変えてみます。ボーダーレスを考えるのは「空間」だけでしょうか。大気環境研究には、観測、実験、調査、モデリングなど、さまざまな研究領域の方が携わっています。私の研究も含めて多くの研究は、どちらかと言えば一つの研究領域の中で行われることが多く、他の研究領域と交流を持たずに進んでしまうことがあります。しかし現実的な問題、また現実的な対応が必要となってくる大気環境問題は、多くの研究領域との意見交換などを通して研究を進めていくことも必要です。研究領域間の垣根を取り払って、共通の目的に向かって進めることも必要でしょう。その意味からすると、研究領域という観点からもボーダーレス化が必要であるといつてよいのではないのでしょうか。近年、徐々に異領域間の交流、そして共同研究も進んできていると思っていますが、少なくとも国際的な視点から見ると、日本での異領域交流はまだまだ多くありません。より数多くの、また多面的な研究も求められるものと思われま

研究面での異領域交流、ボーダーレス化を推進し、充実さ

れるために必要となってくるのは、異領域をつなぐことのできるニッチ領域、さらには両者に精通する研究者の存在でしょう。それぞれの研究領域はそれぞれの概念や方法を持ち、ほかからみると何をしているのかわからない、用語等も独自のものであり何を言っているのかわからないといったことが多々あります。異なる領域の橋渡しをする、分野間での考え方や用語の通訳をする、個々の研究を統一化する、といった役割を担う研究領域や研究者が存在することも必要となってきます。ただ、残念ながらそのような人が少ないのもまた事実です。

そのためにも、今後の大気環境研究あるは学会の課題の一つとして、異分野領域にまたがる、いわばニッチ研究領域を発展させること、さらには橋渡しができる人材育成を挙げることができると筆者は考えています。もちろん、このような方向性に行くことはない、と考えられる方や、必要性ない領域もあるかとは思いますが、しかし、実世界での対応までも考えると、多様な研究に基づく統合化された成果が必要となることは間違いのないでしょう。

とはいえ、実際には難しい試みではあります。始めからうまく行くものでもないでしょうし、とりあえずは相互理解、といったステップから始めざるを得ません。そのための一つの方法として、普段規くことのない分科会等に出席してみるのはいかがでしょうか。自身が関係する分科会とは異なる他の分科会活動や支部活動に参加することを通して、幅広い領域の方や研究とふれあい、空間的な意味に限らず研究のボーダーレス化やニッチ領域の充実化が進んでいくことでは、そして最終的に研究成果もこれまでとは異なった視点をもったものになるのではと思っています。

最後に、話は変わりますが筆者は財務担当理事を務めております。ご存じのように、大気環境学会の財務状況は芳しくありません。学会としても、早急に対策を講じていく必要があります。そのためのプラン作りを行っています。学会員の皆様には一時的な意味でご不便をおかけすることにもなろうかと思っていますが、財務面でのバランスがうまく行かないと研究活動にも支障を来すことになります。運営等の面は、筆者も含めて研究者にとって一番苦手な領域であると言えますが、研究面とのボーダーレス化の検討・推進をも考慮しつつ、学会運営面でもあおぞらを目指さないといけないと考えています。

皆様のご協力をお願いいたします。